

国語 第2学年 思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしょう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第2学年下巻の物語。単元名・配当時間は同社の年間指導計画例による。他社の教科書では教材が違うので、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、物語を紹介する単元に置き換える。場面の分け方と、みきの行動を表す叙述は使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物語を読む時に、まず誰が何をしたかを確かめ、登場人物のしたことを手がかりに、その時の様子や、そうしたわけを具体的に思い浮かべられる。思い浮かべたことを吹き出しにし、どの言葉からそう思ったかを言える。そのうえで、あらすじと、好きなところとそのわけを入れて、お話を家の人に紹介する文章を書ける。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)エ	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。

単元の目標

- (1) 文の中における主語と述語との関係に気付く。読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。〔知識及び技能〕(1)カ・(3)エ)
- (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。(読むこと C(1)イ・エ)
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(第1学年及び第2学年の目標(3))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) ②読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	①進んで、場面の様子に着目してみきの行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、お話を紹介する文章を書こうとしている。

単元の流れ

全10時間（読むこと10時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（2年）の配当による。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第2学年で年間315単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名から、みきのたからものは何かを予想する。 ○範読を聞き、心に残ったところと、ふしぎに思ったところを書く。	態①（発言・ノート）
	2	○初めの感想を出し合い、学習課題「みきのしたことやようすを思いうかべて、お話をしようかいしよう」と、紹介する相手（家の人）を決め、学習計画を立てる。	
第2次	3	○誰が、いつ、どこで、何をしたかを確かめ、お話を場面に分ける。 ○「だれが」「どうした」に当たる言葉に線を引く。	知①（ノート）
	4	○場面ごとの出来事を一文ずつで書き、あらすじにまとめる。	思①（あらすじのワークシート）
	5	○みきとナニヌネノンが出会い、話をする場面を読み、みきのしたことから、その時の様子を想像して吹き出しに書く。	
	6 （本時）	○ナニヌネノンと別れる場面を読み、みきのしたことから、その時のみきの様子を想像し、したわけを吹き出しに書く。	思②（吹き出し・ノート）
	7	○最後の場面を読み、小さな石がなぜみきのたからものになったのかを、それまでの出来事を思い出して考える。	思②（ノート）
第3次	8	○あらすじと、好きなところとそのわけを入れて、家の人にお話を紹介する文章を書く。 ○書いた文を読み返し、「だれが」「どうした」がそろっているかを確かめる。	知①（紹介文） 態①（見直し）
	9	○紹介文を読み合い、いいなと思ったところを伝え合う。	
	10	○学習を振り返る。 ○宇宙やふしぎな出会いが出てくる本を学校図書館で探して読み、読んだ本の題名を記録する。	知②（読書記録） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：ナニヌネノンと別れる場面のみきのしたことに着目して、その時のみきの様子を具体的に想像し、したわけを自分の言葉で書くことができる。(C(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に書いた吹き出し（出会い、話をする場面）を読み返す。 2 本時の場面の範読を聞く。 ○「この場面で、みきは何をしていましたか」 【めあて】わかれる場面のみきのしたことから、みきのようすを思いうかべよう。 〈予想される児童の反応〉 ・ナニヌネノンと会えて、うれしそうだった。 ・ふしぎな話を聞いて、わくわくしていた。 ・（この場面のみきのしたことを、子どもが本文の言葉で挙げる）	・前時までの吹き出しを、場面の順に黒板に貼っておく。 ・範読の間、みきのしたことが書いてある所に指を置いて聞かせる。
展開 (分)	3 みきのしたことに線を引く。 ○「みきは、何をしましたか。したことが書いてある所に線を引きましょう」 4 線を引いたことを一つ選び、動作をしてみて、その時のみきの様子を想像する。 ○「みきは、どんな顔で、どんなふうに、それをしたのでしょうか」 ○「みきは、どうしてそうしたのでしょう」 5 想像したことを吹き出しに書く。 6 ペアで吹き出しを見せ合い、どの言葉からそう思ったかを伝え合う。 7 全体で何人かの吹き出しを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・さびしくて、ずっと見ていた。 ・また会いたいと思っていた。 ・小さな石を大事にしようと思った。 ・行ってしまったのが、まだ信じられない。 ・ゆっくり、何回もしていたと思う。 ・顔は笑っているけれど、心はさびしい。	・線を引く前に、「したこと」は「みきは～した」の形の文だと確かめる（(1)カ）。 ・動作をする子を何人か前に出し、見ている子に「どんな様子に見えたか」を聞く。動作の速さや向きの違いから、様子の違いに気付かせる。 ・吹き出しが書けない子には、「～だから、～した」の型と、様子を表す言葉の一覧（うれしい・さびしい・ふしぎ・わくわく など）を渡す。 ・「さびしい」の一語で止まる子には、「どのくらい」「どうして」と聞き返し、言葉を足させる。 ・早く終わった子には、別のしたことを選んで二つ目の吹き出しを書かせる。 ・本文の言葉は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	8 書いた吹き出しを、場面ごとの紙（みきのしたことを書いた物）に貼る。 【まとめ】みきのしたことをよく見ると、そのときのみきのようすが思いうかぶ。 9 振り返りを書く。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「どの言葉からみきの様子を思いうかべたか」と「友達の吹き出しでいいなと思ったこと」の二つで書かせる。 ・次時は最後の場面を読み、みきのたからものについて考えることを伝える。 ◎思② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（吹き出し・ノート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて。その左に場面の流れ（出会う・話をする・別れる・その後）を短い言葉で並べ、本時の場面を枠で囲む。中央にみきのしたことを書いた短冊（先生が教科書から書き入れる）を順に貼り、それぞれの下に子どもの吹き出しを並べる。同じしたことでも想像が違う吹き出しは並べて残す。左端にまとめと、吹き出しの型「～だから、～した」。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、みきとナニヌネノンのどちらがしたことかを取り違える。手当ては、「だれが」に当たる言葉を丸で囲み、みきは赤、ナニヌネノンは青の線で分けさせること（(1)カ）。二つ目、様子を「うれしい」「さびしい」の一語で済ませる。手当ては、動作をしてみせ、「どんな顔で」「どのくらい」と聞き返して言葉を足させること（C(1)エ）。三つ目、本文から離れて宇宙の話を自由に作る。手当ては、吹き出しに必ず「どの言葉から」を書き添えさせ、本文の言葉に戻すこと。四つ目、ナニヌネノンの姿がくわしく書かれていないので、姿を決めることに夢中になる。手当ては、姿は書かれていないことを全員で確かめ、みきのしたことに話を戻すこと。五つ目、紹介文であらすじが長くなり、好きなのところが書けない。手当ては、第4時に場面ごとに一文で書いたあらすじをそのまま使わせ、好きなのところとわけに書く量を回すこと（C(1)イ）。

プリントの案

場面ごとの紙（単元を通して使う）

場面ごとに一枚。上に場面の名前（出会う・話をする・別れる・その後）、中ほどにみきのしたことを書く欄（先生が教科書から書き入れるか、子どもが書き写す）、下に吹き出しを貼る欄。単元の終わりに紹介文の材料として使う。C(1)エに合わせた。

本時のワークシート（吹き出し）

左に選んだ「したこと」を書く欄、右に大きな吹き出しの枠、下に「～だから、～した」の型と「どの言葉からそう思ったか」を書く欄。様子を表す言葉の一覧を別の紙で付ける。

あらすじのワークシート

場面ごとに「だれが」「どうした」を書く枠を並べ、矢印でつなぐ。主語に丸、述語に線を引く欄を付ける。C(1)イと〔知識及び技能〕(1)カに合わせた。

紹介文の用紙

「お話の名前と書いた人」「あらすじ」「好きなところ」「そのわけ」の四つの枠。好きなところのわけには、場面ごとの紙の吹き出しを使ってよいことを書いておく。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価標準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（2年）「2年下巻」の本単元の行。単元名・教材名・配当時間（読むこと10時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306・第2学年315・第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重